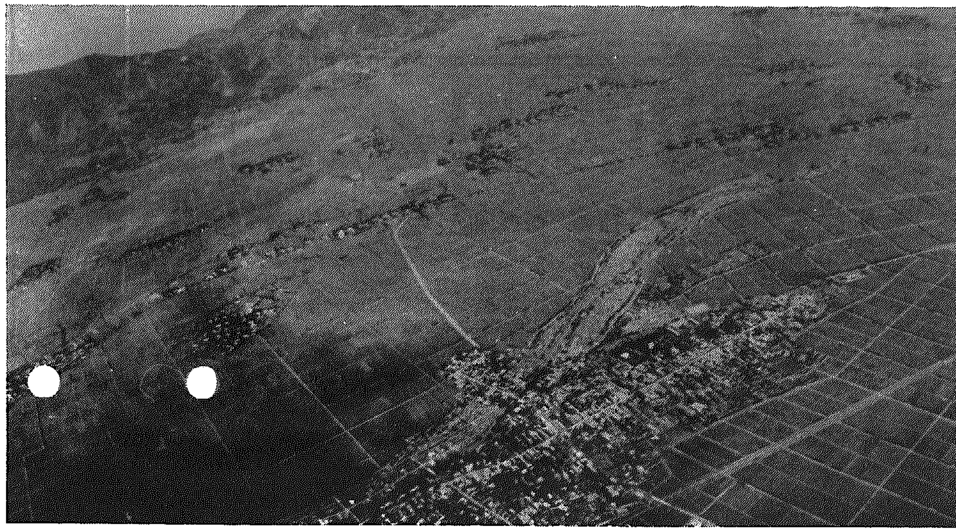
総合開発審議会中間報告から

〝未来からの呼びかけ〟に答えて広大な岩室をえがく



村行政の「計画策定に住民参加」……を、目標に総合開発審議会をつくり未来の岩室をえがいてきた。同審議会は、十一月三十日役場会議室において、各部会の中間報告し討議し広大なビジョンをえがいた。審議会は、村議会の審議機関でなく、あくまでも、村長の諮問機関で、村民の声を基調とし、研究され続けられていく、岩室村の発展は、現在の、創造的努力と、融和の成果を未来に実らせることにある。真の繁栄と福祉も、自由とつねに、ひらけゆく未来からの呼びかけに、応ずるものでなければなりません。

そこにこそ、村の発展があります。また試練にたえ、たゆみなき前進を重ねてきた。そして各方面に、およぶ輝やかしい成果は、すべて新しい世紀への道標となるであろう。そして私達が「未来からの呼びかけ」に答え、確信をもって、村の進路をさししめすためには、つねに遠く、深く広く考える必要があるであろう。村の将来について次時代を展望し、総合的、科学的な未来像を図くことなしに、岩室村の新しい設計図は生まれてこないでしょう。

過ぎ去った、村の進歩の跡をかえりみ、更に新しい時代への希望を託した村民の融和と前進を希求する、若々しい、ビジョンがのぞまれます。

私達の未来の計画は、今日えがいたら、又明日にえがき直し、これでよいとゆう結論はいい得ないであろう。この審議会の報告内容も時代の発展とともに変えられていくであろう。

都市計画

村を縦貫する50m道路

発展への足がかりに

岩室村は行政、経済、文教を通じ、近隣町村と密接に連携し、平野、山岳、海岸と豊富な資源を有し、燕三条、吉田の工場地域との交流、或いは接点に位置し数本の国・県道が交流している。

又スカイライン出入口ゲート地点を有し、産業の分散動向に対応して発展が予想される。村の都市計画にあたっては、市街と農村部山間部、海岸部の均衡ある発展を図るため、相互の依存性、関連性を充分考慮し広域的な見地による総合的な計画を進める。計画的な土地利用、環境整備による産業、生活基盤の編成を企図するものとする。

地域の編成と整備

1、工場地域

門田線沿いの和納地内に造成、岩室駅に近く、輸送労働力及び工業用水供給も比較的好条件に恵まれ、公害問題も広域処理が可能であり、工場誘致し、村内に散在する家内工業的な企業を収容する工場アパートを建設。

2、商業地域

工場地域を有する、駅周辺と既成の和納商店街を軸とし、専門店化し、アーケード、マーケット等で、経営の基本的構造を改善し、共同駐車場を設定し、商圏の拡張、周辺都市、住宅街への流通を円滑化する。

3、生産地域

平野部を米つくりを中心に農産物の主産地とする。夏井山を開拓し農業研修センターを建設し[illegible]する農業に対応する。

4、住宅造成地域

道路網整備、自動車交通の発達による距離感の圧縮から都心を離れた閑静な住宅環境が求められると思われる。石瀬、金池の山麓台地を開拓、住宅地を造成し、公募分譲方式で開拓する。

5、遊園地域

岩室、樋曾、山麓一帯の温泉を開発、大衆の宿泊、集会場を有する、温泉会館を建設、子供を主体とした総合遊園センターを建設、白岩、ガケ松附近の海岸、山麓、サーキット場、附近に海水浴場、スカイラインを中心に、多宝山に山頂遊園を作って四季にわたっての遊園地域にする。

6、墓苑地域

海に面した台地に、墓苑地を造成、周辺大都市の都市計画により、墓苑地の必要性に迫まられることが推察される。墓参客の確保による各遊園地域への連帯性を計るため、間瀬海浜の台地にふさわしい、美観をもつ墓苑地をつくり分譲する。

7、上下水道の整備

上水道には基礎的条件はよしとするも、下水道については放任されている。ここで公営下水道を設置し、遊園地域、住宅、商工業地域について優先処理し、顧客への清潔な環境を与え徐々に全域に及ぼすよう構成する。

8、基幹縦貫自動車道

国道一一六号バイパス、関越自動車道、北陸自動車道路網などの関連において観光道路とし、又主生産地域の農産物流通産業道路として、顧客の誘致を図る上において巾員50m、延長六km、和納―西中―白鳥地内を経て石瀬で県道、新潟―寺泊線に交叉し、山麓より一部隧道によって、間瀬海岸遊園地へ通じ海岸道路に接続せしめる基幹道路として発展への足がかりとする。

観光商工

広域観光周遊基地として

太陽と緑の村に

所得水準の向上とともに余暇の増大により、観光需要の増加が推察される。特に県総合開発計画などのレクリェーションエリアの重要性が増す。弥彦、佐渡などの連携における広域観光を主体とし、ファミリ化を図り利用者の拡大がなされなければならない。温泉、海水浴場、多宝山の自然景観の海岸線と平野、山麓の名所旧跡、サーキット場、スカイラインとの結びつき交通、道路、宿泊等の受入体制の整備と景観、文化財の保護体制も考えなければならない。また、商工の振興、産業開発の一連性をもって、既成商業の構造改善工業の集団化など、適切な結合体を整備しなければならない。

(1) 観光道路

1、基幹自動車道の観光化

道路を観光資源として装備活用、県道との交叉を立体とし、附近に観光バスターミナルを誘致し、駅との連携で広域観光周遊基地を構成する。

2、観光バイパス道路の設置

丸子山を中心とした遊園地帯を縦貫する道路を建設周辺の観光産業団地推進の基線とし、また樋曾、岩室石瀬地内の矢川沿いで、金池地内へ抜けるバイパス道をつくり、自動車の流れを円滑化し観光客の進入を容易にする。

3、駐車場の設定

樋曾、岩室、石瀬の一部の矢川以西の区域を駐車地区とする。

(2) 観光、施設、資源、産業の拠点開発

1、温泉資源の活用

岩室温泉街の中で温泉会館を軸とした丸子山一帯周辺を拠点に子供の国遊園地天神山城を復元、松岳山附近の名所旧跡を結ぶ周遊ルートを設定し、スカイライン山頂遊園に結ぶ。

2、スカイライン沿線

多宝山頂に沿う附近に観光牧場、ロッジ、スキー場駐車場、展望台をつくる。

3、間瀬海岸

海浜より水中にかけて、宿泊施設をもつ、水中ホテル、水中展望設備。観光港を設置し、佐渡と提携した上で、観光遊覧船を相互発着せしめ、広域周遊客の海の基地とし、交流を促進し併せて海岸遊覧小型船を常備するものとする。

4、保養施設の誘致

海浜の丘陵地に企業社員の保養施設群を誘致。

5、交通公園の設置

サーキット場附近に、児童の交通ルールを遊園化し将来のカー時代にふさわしいドライバーを遊園しながら育成する交通公園をつくる。

(3) 駅前

1、駅前広場の整備

越後線の複線化、急行の乗入停車で観光客の大型化を図り駅前広場の拡張と観光、バスターミナル、ハイヤーの進出を誘致する基地の基礎的な整備をする。

(4) 観光産業の開発

主生産地たる、農業の関連で選定し、山麓遊園道を基線として、果樹、ナメコシイタケ、鯉、スッポンなどの養殖を、点在する。観光地区へ供給し、卓供品とし、且つ土産品として開発する。

教育社会福祉

社会教育の実践の場

村民会館つくり住民の生活向上

村づくりは、人づくりに成り立つという、根本理念に立って、教育施策、施設面に考慮し、その中で、機会均等の姿を与える。公民館の分館活動を取り入れ、身近な問題を含めて、振興すべきものであり、加えて学校施設の整備運用する。

また社会福祉的な施設も充分に検討されるべきで施設への依存も考慮しながら調査活動ひいては、その動向について知る手段も併進しなければならないものと思われる。

1、公認プールの設置

児童生徒、一般村民の体力の向上を図る上で、学校単位にプールが必要視され村営方式が望ましいと考えられ、投資に対する使用期間、比率等を見るに、更に将来に向って、使用効率を高める必要性も考慮する。

2、村民会館の設置

青少年の健全育成、生活の合理化推進、これらの母体となる研修、福祉施策の実践の場としての社会教育の場となる総合研修センターの設置が望まれる。この中には、集会、談話、図書室、結婚式場、娯楽、郷土史料室、入浴施設など、完備したもの、その位置については、本来の特質を損わないで、交通の面も配慮して建設。

3、学園団地の形成

交通量の激増と通学バスの関連から、中学校を中心として、小学校、保育所などを集中せしめ、その中で一貫した、総合教育行政の推進を図る。和小は老朽化し、加えて、児童の激減の推移から、必然的に、改築統合の時点が到来するものと考えられ、ここで、学園団地を形成せしめ、通学バス運行を恒常的に専門化して行くことが考えられる。

農林水産

大型機械化態勢に対処

研修センター建設総合的農業究明

農業経営形態がかわり、第一次産業人口の減少傾向が示され、その中で余剰労力の活用、更に将来に向っての姿は、予測を許さないものがあると思える。敢えて得るであろう想定のもとに、基本的な推移を企画し且つ対応する機能を兼ね備えたものが望ましいと考えられる。

林業の振興は林道の設置と搬出施設の整備、植林の奨励、技術研修、村有林活用と育成、治山事業への協力も合せ、考えられるべきもので、更に漁業構造の改善、漁港の整備等も水産振興の重要な要素となる。

(1) 農業形態

1、基幹作物

米つくりを中心に、所得増加と、省力は、今後の大型機械態勢に対処するため基本条件の整備する。

A、農地区画　三反～五反

B、基幹農業　巾一〇m枝線六m舗装

C、用排水路はコンクリート

D、機械化は大型化し、村一貫した、機械化態勢の実現

E、経営規模拡大、協同化集団栽培

2、観光果樹園団地の造成

石瀬、金池の住宅地の周辺岩室、樋曾の遊園地域の中で、四季にわたる、果樹団地造成、観光客への直売農作物加工所の設備と関連しながら推進する。

3、畜産団地

今後、畜産のあり方として、多頭化を考えるものとし、その場合、宅地利用程度では限度があり、ふん尿等の衛生、公害問題の処理も広域化することが可能となり、畜産団地を設定し大規模畜産の実現を図る。

4、農業施設

畜産の振興多頭化の方向が農家経営と直接結びつくものと考えられる。

その方向づけとして、基盤整備の完了した農地で、水田裏作として、麦作を全耕地に実施し、ライスセンターを建設、米貯蔵庫と併行して、考えて、飼料工場の設置をする。

5、農作物加工所の設置

稲作、果樹、畜産、そ菜いちご等の作物をふやしその商品価値を高めながら総合加工処理をすることが必要とされ、観光物産として開発し育成する。

6、農業研究センター設置

夏井山開発によって、農業についての総合的な試験研究、研修圃場等を併合した一大センターを設置し、農業指導機関を集中せしめその方向づけを、将来にむけて、永続的に究明するものとしたい。